

趣旨

地方運輸局等が地域公共交通確保維持改善事業（以下「確保維持事業」という。）の二次評価を実施するに当たり、本会議を通じて学識経験者等から助言を受け、確保維持事業の事後評価を充実し、地域における確保維持事業の取り組みが効果的・効率的に推進されることを目的とする。

概要

◇日時：令和4年2月18日（金）10:00～12:00

◇場所：ウェブ会議形式（事務局：関東運輸局16階会議室）

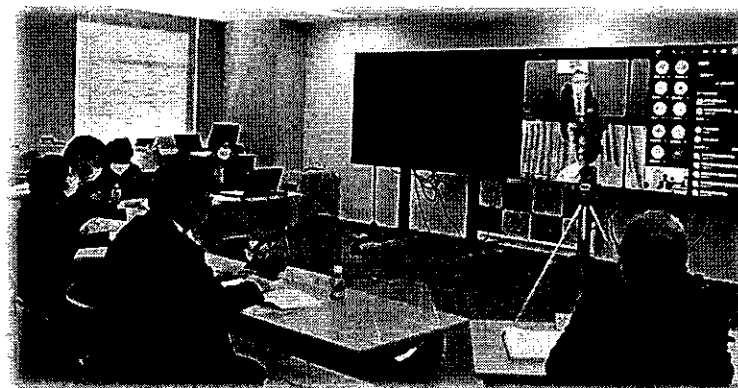
◇委員：中村 文彦氏（東京大学大学院 新領域創成科学研究科 特任教授）

轟 朝幸氏（日本大学理工学部 交通システム工学科 教授）

菱谷 琢治氏（株式会社日本政策投資銀行 都市開発部 課長）

関東運輸局（交通政策部長、自動車交通部長）

東京航空局（総務部長）



審議案件

■確保維持事業の各補助事業のうち、

①地域間幹線系統確保維持事業（栃木県生活交通対策協議会）

②地域内フィーダー系統確保維持事業（土浦市地域公共交通活性化協議会）

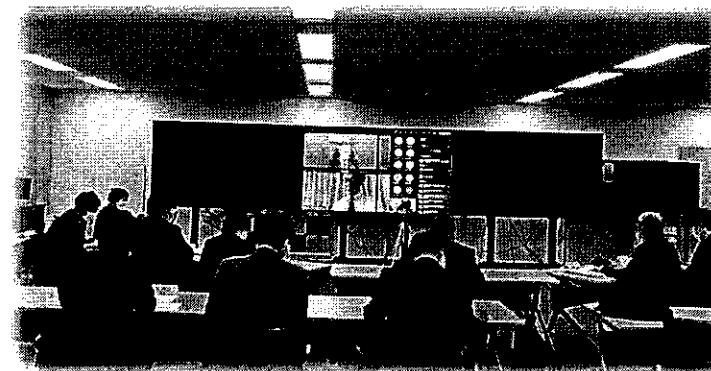
③地域公共交通調査事業：地域公共交通計画策定事業（大井町地域公共交通会議）

④地域公共交通利便増進事業

：利便増進計画策定事業（江戸川区地域公共交通活性化協議会）

⑤離島航空路確保維持事業（東京都離島航空路地域協議会）

*⑤については、報告案件



委員からの主な助言

①地域間幹線系統確保維持事業（栃木県生活交通対策協議会）

- ICカードの導入によりデータを収集し、開業を控えているLRTの影響や、アフターコロナ・ウィズコロナ等において人流がどう変わっていくのか、想定される既存の交通機関のダイヤの見直し等に活用していただきたい。ODデータだけでなく、カード所有者個々の乗車回数（月何回乗ったか等の乗車習慣）を分析できると良い。
- 市町村域を超えた移動手段の確保において、県の役割が非常に重要。（ゆうがおバスの事例のような）県が仲介役となって市町村間の移動を円滑にする取り組みの実績を積み上げてほしい。
- 自家用車依存から脱却するという視点が必要。自家用車から鉄道、バス、LRT等へとシフトさせていく議論があると良い。
- 自動運転の実験は「移動」に対する関心を市民にもってもらうきっかけに繋がるため、それを踏まえて、市や県が仕掛けを用意すると良い。

②地域内フィーダー系統確保維持事業（土浦市地域公共交通活性化協議会）

- サステナブルな地域公共交通を目指すうえで、財政や人的資源などの制約がある中で、いかに収支を意識しながら、かつ公共性を保持していくかがポイント。利用者を起点としながら、行政、事業者の三位一体となりサステナビリティを確保していくことが重要。
- バス事業全体として運賃が硬直的という特徴があるが、サステナビリティを確保していくために適切な運賃、他の交通手段との比較や利用者の許容度を確認しながら、金額の設定に努めてほしい。
- まちの活性化が主たる目的であって、バスは手段であるというところが評価すべき点。移動の目的をつくるのが、利用者を増やすための第一歩。
- バスロケーションシステム（位置情報システム）については、お店（目的地）のウェブサイトと連動させたり、高齢の方でも扱いやすいように追加の操作無しで自動に表示されるなどのアイデアを参考にしてほしい。

③地域公共交通調査事業：地域公共交通計画策定事業（大井町地域公共交通会議）

- 周辺環境の変化、まちづくりの進捗等に合わせて、交通の再編や交通結節点の機能強化を行うなど、計画策定後も状況をリアルタイムで把握し、目標値も必要に応じて随時見直しを行っていただきたい。
- 運行形態を変更しながら、「輸送資源の総動員」にチャレンジする姿勢を評価したい。
- アンケートやヒアリングを実施した際、対応が難しい意見に対して、無回答ではなく可能性に繋がる回答をすると、町民からの信頼及び関心が増す。
- 公共交通機関の活用により（特に児童の）交通事故のリスクを下げ「安全」を確保する、おでかけによる「健康」維持、といったキーワードを前面に打ち出しており、クロスセクター効果も考慮されている点を評価したい。
- アプリなどを使わなくても、交通手段を束ねて案内すること、政策を束ねていくことこそが「MaaS」のコンセプトであり、参考にしてほしい事例である。

委員からの主な助言

④地域公共交通利便増進事業:利便増進計画策定事業(江戸川区地域公共交通活性化協議会)

- 便数だけに着目するだけでなく、ダイヤや車両の大きさ等、車両生産性を上げて供給サイドも需要に合わせていく取り組みが必要。
- 都市部においては、サービスの向上を徹底する姿勢が重要。ダイヤの平準化やパターンダイヤ、速達性の向上等により、定時性・信頼性を確保することにチャレンジしてほしい。過去のバスの運行実績について、天候の影響や曜日別など、バスの遅延傾向のデータの分析を行い、利用者に提供することも有効。
- バスの乗り継ぎが回避される理由の一つに、初乗り運賃の加算による割高感がある。難しい課題だが検討してほしい。
- バス停や駅が大事だと着目することには意味があり、乗り継ぎのしやすさだけではなく、待ち時間をポジティブに考える視点がまちづくりの中で重要である。

委員による総評

○今回取り上げた事例はそれぞれ、工夫、調査分析、チャレンジしている事例であり、他の地域にも横展開していただき、どんどん切磋琢磨して取り組んでもらいたい。

○交通が都市の中で重要な役割を担っているということはもちろん、モビリティ戦略が「まちをつくっていく」位の気概を持って進めて頂きたい。公共交通だけではなく自転車や徒歩などを含め全体を体系化し、「地域を元気にする」という目標のために色々なものを組み合わせながらチャレンジを続けて頂きたい。新型コロナで大変な状況だが、先は明るいと思っけて攻めて頂きたい。

○県と市町村のつながりのなかで「県の役割」「市町村の役割」それぞれどうあるべきかを考えて頂き、オリジナリティを出すことにこだわらず、他の良い事例を学び、まちの事情に合わせて調整し取り入れていくことが重要。